

～昨日の風 明日の風～
**経営コンサルタント
 独白録**

【第84回】 サンタクロースの仕事観



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、(株)経営改善支援センター(福岡市、URL: <http://sien.co.jp/>) 代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

思わぬ新型コロナウイルスの影響を受けて、世界規模で大混乱が発生しました。人々の交流が阻害され、日常生活も様々な制約の中で送らなければならなくなりました。日本では東京オリンピック開催が延期され、来年の開催すら危ぶまれる状況です。様々な分野で消費が落ち込み、経済活動が停滞しています。社会の枠組みが大きく変わろうとしている中で求められる人材の要素やレベルも変化しています。より意識の高い人間を揃えなければ、この変化にはついていけないかもしれません。

3段階の意識レベル

仕事をどのように考えるかについて「サンタクロースの仕事観」という話があります。その中では3段階の意識レベルを示しています。サンタクロースは12月24日、真冬の夜に子供たちにプレゼントを届ける仕事をしています。では、そのサンタクロースはどんな思いで自分の仕事をしているのでしょうか。

①アマチュア

「仕事だからやっている。もっと楽な仕事があればそちらのほうに移りたい」と嫌々仕事をしている【作業員レベル】のサンタクロースがいるかもしれません。何しろ寒いのです。ましてや真夜中です。誰も好き好んでやりたいとは思いません。そうした投げやりなサンタクロースが存在するかもしれません。皆様方の会社の中にもそうした嫌々働いている人たちがいないでしょうか。その人たちのことをアマチュアレベルの意識と呼びます。

②スペシャリスト

「私の仕事は、迅速に正確に荷物を届けることだ。私はその仕事ぶりに対して自信がある」と自己満足しているサンタクロースもいるかもしれません。彼らは【職人レベル】の人たちです。確かにこうした職人氣質の強い人々が組織を支えています。組織の中で最も多いタイプの人たちかもしれません。多くの場合、彼らはスペシャリストと呼ばれます。仕事に対する責任感に関して指導される時にはスペシャリストになりなさいと言われることもあるかもしれません。

③プロフェッショナル

「私の仕事は子供たちに夢を届けることだ。そのためだったら私は何でもやるし、どんな吹雪の中でも喜んで出かけていく」と考えるサンタクロースをプロフェッショナルと呼びます。自分の仕事の使命を理解し、そのために努力や労力を惜しまない【付加価値創造】のサンタクロースです。組織の中でこうした意識を持ち働いている人は少ないかもしれません。しかし、自分の使命を理解しているということが何よりも高いレベルの意識だといえます。

組織が必要とする人

組織の中に③の【プロフェッショナルレベル】の人間を何人抱えることができるかがこれから乗り切る上でとても大切なことです。

「社員の意識改革がとても大事だ!」と叫ぶ評論家やコメンテーターはたくさんいますが、それがどういうことを意味しているのかを正確に理解しているのかどうかは分かりません。単純に経営者と同じ感覚を持った人間を育てなくてはならない、と言った人がいますが、自ら資金を調達し、企業を興し、運営するために借入れをいとわず、リスクを担っている社長と同じ感覚を持った人間を育てるのは無理な話です。そうした抽象的な意識改革論ではなく、このような丁寧な意識レベルの解説ができなければ本物の人材は育てられません。

生産年齢人口の急速な減少

厚生労働省の予測では、日本の生産年齢人口(15歳以上65歳未満)は2017年の6,530万人に対し、2025年の時点で6,082万人、さらに、2040年には5,245万人にまで減少するとみられています。現在のコロナ禍の中では非正規社員の雇い止めや、正社員の早期希望退職などが推進されていますが、少し長い目で見れば圧倒的に「働き手」が少なくなります。外国人労働者を増やしロボット化を進め、AIを活用するという目論見も思ったような形にはなりません。

今いる人間を、新しく入ってくる人間をどのように育成するかは企業組織の永遠のテーマですが、ここに来て求められる「速度」と「質」が大変化を起こしています。